

本四備讃線

本四備讃線は、岡山県倉敷市の茶屋町駅でJ R西日本宇野線から分岐して南下し、児島駅を経て鷲羽山に至り、下津井瀬戸から備讃瀬戸までの区間と番の州の一部は道路と路線を共用し、香川県坂出市を経て宇多津町に至り、宇多津駅でJ R四国予讃線に接続する延長 31.0km の鉄道路線です。本四備讃線は、瀬戸大橋が完成した昭和 63 年 4 月に全線開業しました。

瀬戸大橋は昭和 53 年 10 月の着工以来 9 年余の歳月をかけて完成したもので、本州側から四国側にかけて並ぶ櫃石島、岩黒島、羽佐島、与島、三つ子島の 5 島を結ぶ、下津井瀬戸大橋、櫃石島橋、岩黒島橋、与島橋、北備讃瀬戸大橋、南備讃瀬戸大橋の 6 つの橋の総称で、橋梁部のみで約 9.4km、陸上の高架部を含めると約 13.1km の道路・鉄道併用橋です。瀬戸大橋は 2 層構造で、2 階部分は 4 車線の瀬戸中央自動車道、1 階部分が本四備讃線（設計速度 120km/h）の 2 線となっており、将来新幹線（設計速度 160km/h）が建設される場合に備えてさらに 2 線敷設できる構造となっています。また、吊橋部では安全で快適な列車走行を支えるために特別に開発された軌道伸縮装置や、橋梁上のレールの大きなたわみに充分耐えられるように設計されたレール締結装置など、長大橋ならではの技術が使われています。

この本四備讃線と宇野線・予讃線の一部を合わせて、岡山～高松間は瀬戸大橋線という愛称で呼ばれています。この瀬戸大橋線岡山～高松間の快速マリンライナーの所要時間は最速 52 分で、宇高連絡船を利用していた時の岡山～高松間の所要時間 1 時間 42 分と比べると、50 分短縮されました。なお、明治 43 年の開業以来運航されてきた宇高連絡船は、瀬戸大橋の開通に伴い昭和 63 年 4 月に 78 年の歴史に幕を閉じました。

本四備讃線の開業は、本州と四国間の時間短縮だけでなく、それまで霧や強風、波浪など気象条件に影響されてきた海上交通から陸上交通への転換により定時性、安全性を高め、乗換えや荷物の積み替えの不便もなくなり利便性を高めました。このため、本四備讃線はビジネスや観光などの面で人の往来を促進し、本州と四国間の鉄道旅客数は、本四備讃線開通前の昭和 62 年の約 428 万人から、開通した昭和 63 年には 1,099 万人へと約 2.6 倍に増加しました。また、国勢調査によると、岡山県と香川県の間の通勤・通学者数は、本四備讃線開通前の 1985 年の 1,365 人/日から、開通から 32 年後の 2020 年には 5,172 人/日へと約 3.8 倍に増加しており、本四備讃線が生活圏の拡大を支援していることが分かります。本四備讃線は、本州と四国間の人や物の流れを促進して、産業経済、観光、日常生活などさまざまな面で地域の活性化に貢献しています。

<参考文献：交通新聞社編「J R 四国 20 年のあゆみ」2007 年、本州四国連絡橋公団編「瀬戸大橋技術誌」1989 年、本州四国連絡橋史編さん委員会編「本州四国連絡橋公団三十年史」2000 年など>

